

## 1. 実況上の着目点

① 寒冷渦がアムール川中流域にあって、500hPa 5280m付近で-33°C以下の寒気を伴うトラフが朝鮮半島付近を東進中。低気圧が千島近海を北上し、日本付近は冬型の気圧配置。全国的にやや強い風や強い風が吹き、波の高い所がある。また、日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)が北陸地方を指向している。JPCZの近傍や南側は相対的に暖かく沿岸では雨の所が多いが、JPCZ北側や山沿いを中心に雪となっている。東北地方～東日本では3時間で5cm前後の降雪を観測。北海道地方では、低気圧の影響で寒気の流入が強まっており、3時間で10cm以上の降雪を観測。

② 関東の東～日本の南は気圧の谷となっており、関東の東を中心に活発に発雷。



主要じょう乱解説図

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の冬型の気圧配置は1月2日にかけて続き、寒冷渦は1日は北海道付近を通って千島近海に進んで2日にかけてほとんど停滞する。1項①のトラフは31日中に北日本を通過し、JPCZの指向先は南下して1日にかけて西日本に向かう。2日は、500hPaで-39°C以下の寒気核を持つトラフが本州付近を通過して平年差-10°C前後の寒気が西～北日本に流入し、JPCZの指向先は中国地方付近～若狭湾付近～中国地方付近と変動が大きい。上空寒気とJPCZ近傍の下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い降雪が強まって大雪となる所がある。冬型の気圧配置が強まる2日は、850hPaで-9°C以下の寒気が西～東日本の広い範囲に流れ込むため、普段雪の少ない地域でも降雪となり大雪となる所がある。北日本では1日にかけて、西～東日本では2日は、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪やなだれに注意。北～東日本では2日にかけて、西日本では1～2日は、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。これまでの雨で地盤の緩んでいる北陸地方の沿岸では31日は、土砂災害にも注意。また、冬型の気圧配置やJPCZの影響で、雪を伴ってやや強い風や強い風が吹き、波がうねりを伴って高くなりしける所がある。全国的に2日にかけて、強風や風雪、高波に注意。

② 31日朝までに、1項②の気圧の谷に前線を伴う低気圧が発生して東北東進。日本の南の別の低気圧が、1日は前線を伴い小笠原近海を通り日本の東へ進む。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。小笠原諸島では発雷の可能性があるので留意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

**4. 防災関連事項【量的予報等】** ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：東北70、北陸50、北海道30cm。③ 波浪(明日まで)：沖縄5、北海道・東北・北陸・奄美4、その他広い範囲で3m。④ 大潮の時期。北陸地方では、注意報基準を超える所がある。

## 5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。